

## 略 歴

### 田中北嶺 たなかほくれい 1838～1918

- 天保9年 北嶺は毛馬内下小路に呉服を商う彦兵衛の長男として生まれた。名を茂八郎と名付けられる。幼少より絵を好み月嶺の許に弟子入り北嶺と号した。
- 慶応4年 戊辰戦役起こり桜庭祐橘氏の馬廻り(側近警護)として従軍。桜庭隊は南部軍の有力な一戦部隊として進撃し大館城の攻略に参加する。その他各地に転戦、戦陣の間、日記帳に絵筆を走らせた。(8月9日出陣、9月下旬終戦)。帰還後、戦場を思い浮かべ戊辰戦役絵日記録を作成する。この絵日記録が鹿角市文化財指定となる。(昭和52年)
- 大正7年 2月死去、毛馬内常照寺に葬られた。享年81歳。

### 坂田 祐 さかたたくすく 1878～1969

- 明治11年 中村富造・ミエ(ともに会津藩士の家系)の二男として大湯に生まれた。
- 明治21年 大湯尋常小学校卒業。毛馬内高等小学校に進んだが、貧窮のため中退。
- 明治29年 勉学の念抑え難く上京。横浜・横須賀・足尾で労働の後、陸軍教導団入団。
- 明治34年 陸軍騎兵学校卒業。陸軍士官学校教官。37年日露開戦により満州に出征。
- 明治39年 恩人坂田桃吉の長女チエと結婚、坂田姓となった。
- 明治40年 東京学院中学部4年編入(29歳)。大正4年東京帝大哲学科卒業(37歳)。
- 大正8年 中学関東学院院長。昭和7年関東学院副院長。12年同学院院長。24年同学院大学学長。40年同学院名誉院長。44年12月死去。享年91歳。

### 大里周蔵 おおさとしゅうざう 1884～1965

- 明治17年 1月30日町長大里寿の四男として生まれた。31年花輪小学校を卒業した。
- 明治35年 東京都文館中学卒業、大阪府立高等医学校大学部本科を卒業した。
- 明治45年 花輪町字塚向21番地に大里医院を開業(28歳)。
- 大正元年 町医と小学校医を委嘱され、以来永年の間町民と学童の健康を守る。
- 大正12年 県会議員に当選。14年町会議員に当選し、県政と町政に参与した。
- 昭和20年 戦後初の町長に推薦され28年まで町政を担当した。
- 昭和32年 町自治功労者として表彰され、34年花輪町文化功労者として表彰された。
- 昭和40年 勲五等瑞宝章を受章。8月30日死去。享年82歳。

### 栗山文次郎 くりやまぶんじろう 1888～1965

- 明治20年 呉服商の長男として花輪に生まれ、父より伝統技法を学んだ。大正時代東京三越呉服店より年三千反以上の注文を受け好評を博した。
- 大正13年 大正の不況のため倒産するが、住民がこの技法保存のため町民大会を開く。
- 昭和4年 伊勢皇大神宮の御用命をうけ奉納した。また、皇族へもたびたび献上した。
- 昭和19年 商工大臣より「技術保存資格者 栗山文次郎」と指定される。
- 昭和28年 貴重な古代技法継承者として国の重要無形文化財の指定を受けた。
- 昭和39年 黄綬褒章を受章し、翌年、勲六等瑞宝章を受章した。
- 昭和40年 6月27日花輪で死去。享年77歳。その後長男文一郎がこの技法を継いだ。

### 高杉重右衛門 たかすぎじゅうえもん 1889～1964

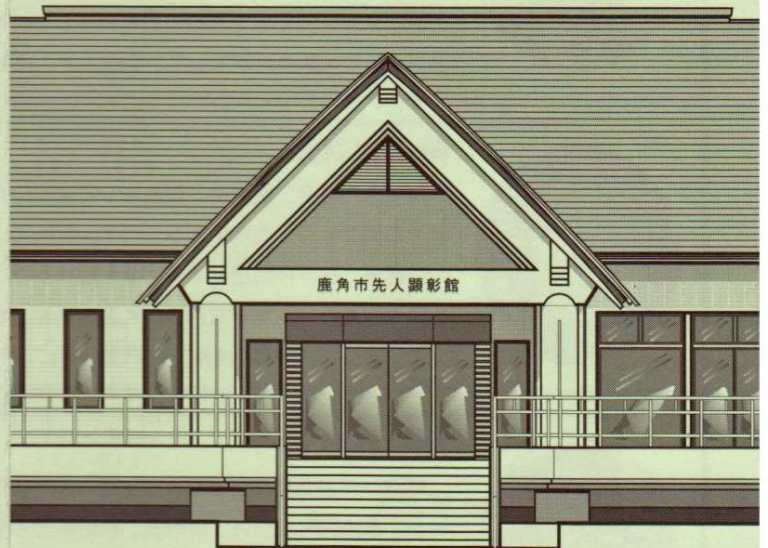
- 明治22年 尾去沢西道口高杉由太郎・ヒテの長男として生まれた。
- 明治39年 秋田県立秋田農業学校本科卒、鹿角郡役所に勤務。大正5年花輪町書記。
- 大正9年 鹿角郡農会評議員、同14年尾去沢村会議員、同15年小作調停委員。
- 昭和9年 尾去沢村助役、昭和12年以降尾去沢町会議員などを歴任。
- 昭和22年 秋田県農業会鹿角郡支部長、秋田県厚生農業協同組合連合会理事。同年4月尾去沢町長、新制第1回秋田県議会議員(30年3月まで2期)。
- 昭和23年 秋田県農業協同組合連合会鹿角組合病院主管、地域医療態勢充実に尽力。
- 昭和39年 勲六等瑞宝章を受章。昭和39年1月20日死去。享年76歳。

## 精神文化の礎を築いた人々…

### 先人顕彰シリーズ④

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集、保存、事跡の調査研究と公開展示をいたしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」の両氏をメインに常設展示し、さらに各界の先覚者を順次展示紹介してまいります。



鹿角市先人顕彰館 ☎ FAX 0186-35-5250  
〒018-53 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地の2





### 田中北嶺

たなかほくれい  
1838~1918

### 従軍武者戦場絵日記を描く

田中家の先祖は江州鑄物師で今の滋賀県辻村の人。初め由利亀田に来て元禄8年五城目の鑄物座を訪れたが、その後鉾山に近い毛馬内に移った。北嶺は田中家15代目に当たる。町人の子に生まれ少年時代から山口流の剣法を学び毛馬内代官桜庭氏の家臣に取り立てられ、盛岡城下に出る。剣道に励む傍ら鹿角の先輩（南部藩お抱え）絵師川口月嶺に師事す。四条円山派の絵を学び、一時は京都に上り森寛齋に入門して特に月嶺の師匠鈴木南嶺の画風を手本にした。画材を自然界に求め花鳥や動物を写實的に調和のとれた物を描く。絵日記を後世に残す。



### 坂田 祐

さかた たすく  
1878~1969

### 関東学院設立と教育に献身

初め軍人を志して陸軍教導団に入り、近衛騎兵連隊勤務を経て陸軍騎兵学校を首席で卒業、陸軍士官学校馬術教官を勤めた。日露戦争では数々の武功により金鷄勲章を授与された。しかしここで人生観は大きく変わり、宗教家として立つことを決意し晩学ながら中学から一高・東大と進んで宗教哲学を専攻した。

卒業後は関東学院創設・大学開学に参画し、院長・学長・理事長としてキリスト教精神に基づいた学園の経営と教育に心血を注いだ。50年余にわたる青少年教育への功勞によって藍綬褒章その他多くの栄誉に輝き、勲三等旭日中綬章を受章した。



### 大里周蔵

おおさと しゅうぞう  
1884~1965

### 町政に尽力した文化人医師

開業して間もなく町医と小学校医を委嘱され、以来永年の間勤務した。また町学務委員も勤め、郡青年団長にも就任した。大正12年県議に当選し大正15年先輩山本修太郎県議と協力して発荷峠から和井内までの十和田顕彰道路開発整備に尽力した。昭和3年県立花輪高女の校医に嘱託され同5年には消防団長となる。また推薦されて戦後初代の町長に就任28年まで三期町政を担当した。有名陸上選手を招き自分も野球弓術をやり体育の振興に努力した。謡曲俳句麻雀等趣味の交友も広い文化人で、晩年保健所長又信用組合理事長に就任経済界発展に尽くした。



### 栗山文次郎

くりやまぶんじろう  
1888~1965

### かづの古代茜、紫絞の大家

鹿角市の特産、紫根染、茜染として全国に知られているが、これは古代技法による天然の草木染である。文次郎はその大家として有名である。化学染料輸入により、その伝統の染技法が消えようとする明治末、地域住民の伝統技法継承、保存の熱望とその仕事を続けることが郷土愛になるのだという信念で仕事を続けた。長年月の製造工程を要する超時代的な染技法は、大正の不況、昭和の食糧増産による原料不足、設備の低下等により経費の累増を招いた。彼はこの困難を克服、無形文化財にふさわしい古代技法をそのままの姿で後世に伝えた人物である。



### 高杉重右衛門

たかすぎじゅうえもん  
1889~1964

### 地域行政農事に寄与・歌人

明治41年鹿角郡農会幹事技師を勤め農業技術の改善に尽力、高杉泔西農園を創設、率先して園芸作物の普及を図った。尾去沢町会議員、同町長、秋田県議会議員を歴任、多年にわたり地方行政の進展に寄与。大館市十二所と花輪を結ぶ路線の必要性を早くから強調、県道としての実現に尽くし、昭和34年開通。尾去沢地区と沿線僻地三つ矢沢の交通不便を解消、地域経済の発展に多大の貢献をした。「露星」と号し若年より歌に通じ、『明星』『文庫』等の中央文芸誌に投稿、地元鹿角時報社には「花輪小唄」をはじめ、郷土色豊かな詩歌を多く寄稿した。